

まちごとまきこむEXPOマガジン

万博世代

EXPO GENERATION

TAKE FREE

vol.

05

2025.10

最終号

特集

わすれたくない

(おぼえてろよ...)

万博世代 interview

毎月、この時代を生きた人々を「万博世代」と名づけ、活動やそこへかける情熱を届ける「万博世代interview」。いよいよ最終号の今回は、大阪・関西万博の夢洲会場やEXPO酒場などで、万博の思い出をインタビュー。あなたのわすれられない、万博の思い出はなんですか？

住 友館で子どもと一緒に**植林体験**ができたことが、一番いい思い出でした！1970年に植えられた木が今の万博に使われていて、今回私たちが植えた木が未来のイベントに使われる、とても素敵なストーリーの一部になれることが光栄です。
(LINDALOSTENARO、BRUONO PAPAOS、DIEGO/イタリア出身)



小 学3年生の頃に行った大阪万博で体験した感動を求めて、愛・地球博や国際花と緑の博覧会、神戸ポートアイランド博覧会、上海やセルビアで行われた万博にも行きました。大阪・関西万博は、もちろん家族全員の通期パスを購入。**今日で来場43回目**です。自分が一番興味があるものは建築で、パビリオンも良いけれど、**わすれられないのはやっぱり大屋根リング**。高さも存在感も、今回はこれが優勝！一番思い出に残る建築です。
(Akinin / 63歳/男性)



息 子がドイツに駐在していることもあって、ドイツ館に行ってみたけど。開幕間近のためドイツ館の予約が取れなかったのですが、行ってみると、シニア優先レーンですと入ることができました。マスコットキャラクターの**サーキュラーちゃん**がかわいかったし、一緒に来たお友達と**ドイツビール**で乾杯もできました。広島から来てよかったです。(せっちちゃん)



休 日や学校が休みの日を狙って、**関東から通い続けた万博**。今日で38回目。5月31日の花火はわすれられません。初めて万博の花火を見た記念すべき日なんですが、**ちょうどウォータープラザの水上ショーと重なって、奇跡的な光景**に。その後はショーが同じタイミングに行われることはなかったんで、二度と見ることができない大切な思い出になりました。
(ペンギン)



イ ンドネシア館の**スタッフと仲良くなったこと**。「インスタに写真載せていい？」と尋ねたら、私の英語が悪かったのか(笑)「インスタ教えて！」と聞かされたようで、アカウントを交換。**今では日本のお菓子やインドネシアの織物など、お土産交換をする仲に!**彼女が来年大阪に来る際や、私がバリに行く際の遊ぶ約束もしています!
(Sovva / 女性)



今 日で7回目の万博。**みんなが描いたカラフルなグラゲ**が飛んでいて、**いろんな国の音楽が聴こえるクラゲ館**が、いちばん楽しかったです。閉幕までに、もう一度行きたいな。
(おおすがはな / 6歳/女性)



人 が多すぎてパビリオンにはどこにも入れなかったよ！でもイタリア館のキャラクター**・イタリアちゃんのグッズ**が買ってよかった。カワイイ!!これが一番の思い出だね。
(ALESSANDRO TRAPLETTI / イタリア出身)



オーストラリア館の**没入感**が素晴らしいかった。熱帯雨林や海など自然をととてもよく表現していたと思う。万博に来るのは2010年の上海に続いて2回目だけど、日本が好きだから大阪・関西万博はととても良かったよ。ただ、予約は難しかったね。2ヶ月前から頑張ったけど取れなくて残念だった。
(Stefan Hiebl / ドイツ出身)



ア **オと夜の虹のパレード**がととても好きです。前の方だと風の状況によっては水しぶきもかかるのですが、中央の前の方で見た時は迫力がありました。いい席を確保するためには2時間前には並ばないとはいけませんが、**海外パビリオンの中には香りの演出もあり、万博を通して感じた「におい」はわすれたくないと思いました。**(暇人3人組)



万 博を巨大なお祭りと捉え、**思い切って演劇で着た王子様の衣装**で参加しました。その派手な格好が功を奏し、パビリオンのスタッフや多くの来場者から好評を得て、新たな交流が次々と生まれたのです。サウジのDJ、ポーランドのコスプレ、WASSEの展示会等、誰もが主役となり、イベントを共に盛り上げ、創造していく経験は、私にとってかけがえのない最高の思い出となりました。**これこそが未来社会のデザイン**だと確信しています。(スリンス)



友 人に誘われて、岡山から来ました。せっかくなので、**二人とも洋服を赤と青でコーディネート**して。**ポーランドのナショナルデー**だったので、パレードを見ることができ、いい思い出になりました。私はピアノをやっているんで、ショパンの生まれ故郷である、ポーランドに興味があるんです。(TOKO / 70代)



関 東に住んでいて、最初はあまり関心がなかった万博。今ではすっかりハマっています。今日で7回目ですが、夏にたまたま遭遇した**サウジアラビアのDJイベント**が一番楽しかった!アラビア音階でつくられたポップミュージックでみんなが踊っていて、なんだか不思議な空間でした。(Sachiko / 30代/女性)

n ull²で**前例のないエラーに遭遇**したこと。マイアログモード中にモノリスが停止して体感で5分ほど同じ映像が表示され続けた。スタッフの人も初めて遭遇したエラーだったらしく、とても貴重な体験ができた。とても珍しい体験だったので、**思い出の写真をキーホルダーに加工して持ち歩いています!**(うーちゃん)

n ull²やクヴェート館、ポルトガル館、大阪ヘルスケアパビリオン、タイ館などに行ってきたよ。一番印象に残っているのは、やっぱり**大屋根リング**かな。日本には6年前にハネムーンで来たことがあって、今回はエキスポのために来日したんだ。建築や文化、ご飯や飲みものもいろいろあって楽しいよね。**フローズン酒が美味しかった!**このあとはビールを飲みに行くよ。
(Alessandro Madero / 38歳/男性/メキシコ出身)



出 会った人や自然とのつながり、そしてnull²です。私にとって2025年の大阪・関西万博は、“根拠の無い自信”と“体験を楽しむレンズ”により、つながりの波紋全てが煌めいておりとても贅沢な時間でした。null²を通じて感じたことをひとことで纏めれば—「AIが霊性を継承するから、ホモ・サピエンスは今今しようぜ!」です。門松は 冥土の旅の 一里塚 めでたくもありめでたくもなし(鷗月院 家隆)



レ イガーデンの**ナショナルデーの舞台**に上がったこと。セントクリストファーネイビスのナショナルデーの時に、英語で言われている状況があまりわからないまま手を上げたら舞台に呼ばれて、**ダンスのレクチャーを受けてステージで踊った**んです。ステージから見た客席の景色がわすれられません。(ひよこ)

こ の万博でしか出逢えなかった人達との思い出と、あの空間でしか体験することができない時間を、私はわすれたくないと思います。今回の万博がきっかけで、本当にたくさんの人と出会い、素敵な時間を過ごしました。186日の万博期間、閉幕はまだまだ先だと思っていましたけど、本当にあっという間で。人生で万博を経験できたからこそ、次のサウジアラビアの万博への興味もつなかりました。あの最高にhappyな空間をつくってくれた皆さん、万博に関わる全ての方々に、感謝いたします。(か.co)



D iscordサーバー内の待ち時間投稿をスレッドシートに自動反映するプログラムを個人的に作成し、それをかっきーさんがウェブサイトで公開したら、**1日のアクセスが20万人を超えるホームページ「万博GO」**になったこと。自分用につくったものが想定以上に多くの人役に立ったことにびっくりした。(もんえな)



万 博仲間が初めてできた日。5月上旬のまだまだ万博に興味を持った人が少ない中、初対面の人たちで集まって、オマーンのコーヒーをみんなで飲みながらお互いの自己紹介したり推しパビリオンを語ってました。この集まり以来、ほぼ毎週夢洲でこの時のメンバーの誰かと遊んでます。**中東圏ではコーヒーは心を通わせるコミュニケーションツールとのことですが、それを実現した思い出のコーヒー**です。(kenjiji)



一 番思い出深いのは**「盆踊りギネス世界記録」に参加したこと**。同時に踊った人数と国籍数の最多を目指す挑戦ですが、事前練習会にも参加していたので踊り終わった時の達成感は素晴らしいものでした。そして何よりいろんな国籍の人が集まって一緒に踊り、同じ喜びを味わえたことがよかったです。**戦争をしている国同士でも、ここでは一緒に踊ることができる**。そして一緒に笑顔になれる。本当に感慨深い体験でした。(コボ / 46歳)



修 学旅行で万博に来ました!ずっと楽しみにしていました。オランダ館とクラゲ館に行けて嬉しかったです。**オランダ館はフラネタリウムのような演出がすごくきれいでした**。ちょうどオランダのアーティストがタイトルを使ってつくった、仁王の作品も見れました!
(島根県横田中学校 2年1組)



45 回通う中で、**パビリオンのスタッフと仲の良い関係を築けたこと**が、一番の思い出になりました。中には、ナショナルデーへ招待してくれた国も!招待してもらった**トリニダード・トバゴのナショナルデー**には万博好きの仲間を誘って参加しました。**スティールパンの世界的奏者が演奏**し、観客みんなノリノリで踊るステージはめちゃくちゃ楽しかったです。恥ずかしがらずコミュニケーションをとることが大事だと改めて感じる万博でした。
(だい / 34歳/男性)

わ すれたくないことは**「夢」**です。私自身、夢洲がまだ更地の頃から携わってきました。ボランティアとして、スタッフとして、そして参加者としてさまざまな経験を積むことができました。万博では毎日がイベント尽くで、まさに夢のような毎日。**万博外でもExpo酒場や万博世代等新たなつながり**も生まれました。万博に来てくれた子どもたちがいつか大きな夢を咲かせますように願っています。次は横浜園芸博で会いましょう!(Shion.K)



今 一番行きたい国はペルー。その情報収集も兼ねてペルーのパビリオンには絶対に行きたい!と思っていました。**ペルーではアルパカを食べる習慣がある**ということを知って、興味があったんです。パビリオンでは、コーヒー豆のプレゼントが!アルパカだけでなく、アマソンの美しい様子なども知り、ますます興味が湧きました。来年は現地へ行きます!(ちる)



特集

わすれたくない

(おぼえてるよ...)

大阪・関西万博閉幕を目前に、2025年の万博世代として最後に抱いた想いは、まさに「わすれたくない」でした。最終号の特集は丸ごと一冊さまざまな人々の「わすれたくないこと」をまとめて残します。語り継がれるような価値を残そうと勝手に始めた『万博世代』。最後までお付き合い下さい!

引地 耕太 × 花岡

万博でオープンデザインを目指した二人
「わすれたくない」を語る。

大阪・関西万博で、さまざまなアーティストと共に繰り広げられた、にぎわい創出プロジェクト『OPEN DESIGN 2025「EXPO WORLDs」』。その過程を大解剖する「大阪・関西万博デザイン展」が大阪府立江之子島文化芸術創造センターに、やってきました！大勢のお客さんを前に突然行ったトークイベント「万博世代 最終号 公開インタビュー」で語られた、仕掛け人の二人の本音をお届けします。

EXPO DESIGN TALK #01「OPEN DESIGN TALK」
万博世代 最終号 公開インタビュー
2025年10月1日 大阪・関西万博デザイン展 会場内イベントスペース
聞き手：山根シボル



引地 耕太 Hikichi Kouta

EXPO 2025 Design System クリエイティブディレクター・アートディレクター。クリエイティブカンパニー「1+10」のクリエイティブディレクター・アートディレクターを務め、大阪・関西万博デザインシステムの開発を担当する。2025年独立。現在、Co-Innovation Farm「VISIONs」、Co-Futures Platform「COMMONs」代表。

個と個で つながっていくことが大事。 今回の万博はまさにそれが 当てはまったと思います。

— 今回のデザインシステムは、
どのような視点で取り組んできましたか？

引地：オープンソースのようにみんなで一緒につくっていくというコンセプトに掲げてきました。参加と共創を促すプラットフォームとしてのデザインということ、一番大切にしています。SNSを通してナレッジやプロセスも共有し続けてきたのも、その意図から。発信し続けた結果、万博開幕の数ヶ月前に、こみやくという名前が二次創作が始まり、それが広がり、たくさんの方が咲いていった。その光景は言葉にできないくらい、もう涙が出そうなほど人生の中で感動的なことでした。

花岡：改めて、丸3つでキャラクターのデザインができるというのは、すごいですよね。子どもも描きやすい。

引地：小さいものを組み立てることで何かができあがってくるという、レゴのようなイメージもありました。コアグラフィックスと呼んでいるのですが、部分としても全体としても成立するようなデザインシステムにしようと思ったんです。そういう考え方や手法は他でもあると思いますが、最小単位に切り出していったとき、今回のように一つひとつに命が宿り空間に生態系が立ち上がるという構造はこれまでなかったんじゃないか、と思っています。

— こみやくにまつわる、忘れられなかったことといえば？

引地：本当にたくさんあって……でも、インタラクティブなやりとりによって物語が生まれるという構造自体が、一番の忘れられない思い出です。確かに0から1へのコアの部分をつくったのは僕たちですが、みんなで一緒に1を10にしていったという感覚をすごく感じています。



初日も関わらず
展示会には1000人以上
の来場があり、
トークショーも熱気が
あった。

大阪・関西万博デザイン展 2025年10月1日(水)～10月19日(日)

ありがとう。またね。

大阪・関西万博デザイン展

期間
2025年10月1日(水)～10月19日(日) ※最終日は15時まで

開館時間
11:00～20:00 ※入場は閉館30分前まで

休館日
月曜日(10月6日、10月13日)

会場
大阪府立江之子島 文化芸術創造センター(enoco) Room4

EVENT

花岡さんって口癖のように 「困り事ありますか?」って 言ってますよね。

— 花岡さんは、今回プロデューサーとして
さまざまな動きをされてきました。

花岡：僕は、変わった髪型で口も悪いので勘違いされるかもしれないですが、僕がやりたいことをやっているわけではなく、引地さんのようなクリエイターがのびのびできるように支えるのが仕事。そのために交渉もするし、お金も出さす。環境を整えることで、アイデアが形になるのであればやったらええやんっていうことで、頑張ってきました。

— それには改めて、どんな視点が必要ですか？

引地：花岡さんは結構、口癖のように「困り事ありますか?」って言ってますよね。

花岡：ほんまですか？

引地：万博協会さんにもよく言っていたイメージ。

花岡：無意識かも。でもそれは、組織としての困り事でなく個人としての困り事を聞いている感じです。

引地：日本人って、個と個で話すと、意外とみんな心を開きますよね。

花岡：そうそう。組織として聞いてしまうと、決定事項しか見えてこない。でも個人として対話することで、物事が明らかになってくると思っています。

引地：個と個でつながっていくことが大事。今回の万博はまさにそれが当てはまったと思いますね。

花岡：大阪だからそれができたというのがありますね。万博協会さんも企業さんも、地元に対して何かしら思いを持っている人が多い。今回改めて、大阪は本音が結構受け入れられる環境だと感じました。地元愛だったり万博愛だったり、多くの人が「愛」を共通言語として持っているから実現したことがあると思う。普通、僕らのような小さな会社が「やりたい」と言ったからといって、国家事業には関われないです。



大阪・関西万博の公式ロゴマークや公式キャラクター「ミヤクミヤク」、デザインシステムをはじめ、会場装飾に使用された「こみやく」や会場音楽を体験できる展示も。

世代の壁や業界の壁も、 どんどん壊していこうと 思っていました。

— 藤本壮介さんをはじめとした、
個人の発信があったことも大きかったように思います。

引地：藤本さんの発信があったからこそ、自分も続けられたというのがあります。万博に対する逆風が吹き荒れて、それまでポジティブに捉えられていたデザインシステムもネガティブな空気に巻き込まれていって、正直ちょっと続けるのは無理かもしれないと考えた時期もありました。このままだと危ないな……と。でも逆風の渦中にいた藤本さんが、あれだけ誠実に心を尽くして説明している姿に、僕らは勇気を与えてもらった。

花岡：藤本さんのような先輩方がいるからこそ、僕らの世代も頑張れる。僕らが頑張ることで、次の世代へも、それがつながっていく。こういう連鎖はすごく大事だと思っていて、僕は結構意識しています。あと、世代の壁や業界の壁というの、どんどん壊していこうと思っていました。

引地：壊すね～。

花岡：ほんまに無駄なんで。個と個でつながれば、そういう壁も関係なくなりますよね。

引地：そうですね。分断をどうつなげていくかというのは、僕もデザインシステムのコンセプトに取り入れていて。人間同士の分断もそうだし、植物や生物、そしてテクノロジーの不調和みたいなものも含め、どのように全てをつなげていくかを、大きなテーマとして考えてきました。藤本さんも「分断をつなげる」ということに言及していましたし、今回の万博では組織づくりや活動においても、何かをつなげたり壁を壊していくということが、一つの考え方でして全体にあったように感じています。

会場とまちをつなげる状況を、 これからのスタンダードに していきたい

花岡：僕は夢洲の会場だけで終わってしまったら、それこそ税金の無駄遣いだと思って、夢洲とまちをつなげ、まちに投資できるような状況にしたかったんですね。そこでサテライト会場として「まちごと万博」というプロジェクトに取り組んできました。大阪府や市、大阪商工会議所さんなどと共にやってきたわけですが、それでも公式には認められなかった。世界の万博のルールなどを決めているBIE(博覧会国際事務局)という組織があって、そこによるとサテライト会場は認めていない、と。どうにか会場とまちをつなげる状況を、これからのスタンダードにしていきたい、と思ってやってきました。パリのオリンピック、すごかったじゃないですか。

引地：一緒に視察へ行ったんですね。

花岡：あれは街の協力がないと実現できない。大阪ならそれがきっとできるだろうと思って、EXPO酒場という集いの場をついたり、各地でイベントをやったりしたわけですが、公式に認められた動きになっていけば、勝手に展示やイベントが生まれる状況にもなっていたんじゃないかなと感じています。

引地：より大きなうねりになっていたかもしれない。

—— 二次創作のルールももっと整理されていたら、より広がっていたかもしれません。

花岡：そうですね、デザインシステムを使おうと思っても、お金を出さない一般市民が使えなかった。それは仕方がないんですが、フリーで使えるものをもっと用意できていけば、さらに盛り上がったんじゃないかな。

引地：ミyakumaの二次創作のガイドラインは出ているんだけど、こみゃくは実は明確に出していないんですね。あったほうが安心してつくれると思うんですが、今は容認されている状態。僕はそれをポジティブに感じているけれど、もっとクリアにしておくことが大事かもしれないですね。ただ、アニメの二次創作自体も基本的にはほとんどがグレーなんです。グレーな環境のもと、みんながどうつくっていくかというのがあって。グレーって言葉自体がネガティブに聞こえるかもしれないけど、グレーはある意味、“淡い”というか、何かと何かの間のような位置。逆に新しいものを生む可能性もあると考えています。

花岡：余白ですね。全部のルールは決められないから、みんなで決めようというグレーの部分が、結果的にデザインと言われる部分でもあると思います。

引地：そうそう。だから“淡い”の部分ができたことで、おもしろい結果につながったとも思います。

花岡：ルールを決めなかったことでうまくいかなかったことも、いったこともあるというわけですね。



自分だけの こみゃくをつくる……

実現しなかったアイデアたち

花岡：今回は宣伝に芸能人を起用しないという、実証実験にもなったと思っています。

引地：芸能人がアンバサダーとして出てこなかったから、ミyakumaやこみゃくがこんなに人気になったような。

花岡：アンバサダーが途中からどんどんなくなるという期間があって、どこまでなくなるねん!っていう。

引地：クリエイターは残っているけどアンバサダーはいなくなるっていう。

花岡：だからこそ、もっとミyakumaやこみゃくがオープンに使えるやり方があったら、より爆発的な何かが起きていたかもしれない。

引地：データ自体をオープンに使えるように突き詰めていったら、よりおもしろかったかも、とは思いますが。最初の頃は、デジタルを用いて自分だけのこみゃくをつくる仕組みや、万博IDと紐づけて、会場に行けば行くほど自分のこみゃくが成長するという仕組みを考えたこともあって。

花岡：アプリ開発として提案しましたよね。

引地：実現しなかったですが、結果的に人間の創造性で二次創作が生まれ、それがデジタルのっていき流れが生まれたのは、本当に感動ものでした。でも実は、自分だけのこみゃくのオリジナルグッズをつくるという案も出していて、それが実現していたら、コンセプト的にもより今回の万博らしさが出ていたと思うので、ちょっと悔しいです。

花岡：「おぼえてろよ」というか、「俺はおぼえてるぞ!!」ということですね。

引地：ずっと思い続けて、いつかどこかで実現させたいですね。

Hikichi Kouta

オープンデザインプロジェクト「EXPO WORLDs」クリエイティブディレクター
EXPO 2025 Design System クリエイティブディレクター・アートディレクター

オープンデザインプロジェクト「EXPO WORLDs」プロデューサー
株式会社人間 代表取締役、変なプロデューサー
一般社団法人demoexpo 代表理事
大阪まちごと万博共創プラットフォーム 協働プロデューサー

Hanaoka

引地 耕太 × 花岡

未来に向けて二人が残せるものとは 「おぼえてろよ」を語る。

クリエイティブで一揆起こそうぜ!って。(花岡) いちいち言葉が強いよ(引地)

花岡：大阪は江戸時代には大半が商人というまちで、自分たちで橋をつくるなど、ボトムアップで取り組むことが根付いた地。僕もそれを脈々と受け継ぎながら、「でもやろう」という意味を込めてdemoexpoという社団法人をつくって取り組んできました。もう、一向一揆やる勢いで。

引地：いちいち言葉が強いんですね。

花岡：クリエイティブで一揆起こそうぜ!って。10人ぐらいの小さい会社でも、ここまでできるんだ!というのを見せていきたいという思いがありました。でも大阪は、そういうことができる場だと思っていて。今回の活動を通して、僕たちの姿や思いをつなげていけたらいいなと思っています。

引地：僕は今回、行政と制度、メディアを含めた市民の中で、共通の基盤や言語ができあがっていなかった、つまりプロトコルが揃っていない万博だった。それによって難しい課題が出てきたり、炎上したりということが起きていった。でも文句をいってもしようがないし、それをみんなで作っていく、より個が当事者になってつながっていくことが大事だと思っています。ボトムアップはもちろん大事ですが、それだけでは草の根的な運動で止まってしまう、大きなことができないので、コアになる部分をちゃんと決めることが大事。そこからどう余白をもたせていくか。そして枠組みからこぼれ落ちた文化的なものがどう花開いていくか。それをどうデザインしていけるかが、今後の僕らの仕事になっていくんじゃないかな。それをこみゃくから教えてもらったように思います。



花岡 Hanaoka

一般社団法人demoexpo 代表理事。2010年に株式会社人間を設立。2021年にチーム「demoexpo」を立ち上げ、大阪・関西万博を勝手にプロデュース。現在、株式会社人間代表取締役、変なプロデューサー、大阪まちごと万博共創プラットフォーム 協働プロデューサーを務める。

会場ではほぼ毎日トークショーが開催され、様々なクリエイターが議論を交わす他、こみゃくの二次創作作家によるイベントも予定されている。

わすれたいくないの 記録と記憶

と、おぼえてろよ…の記録

大阪・関西万博の開催決定前から今までを振り返ると、最初から最後まで“人”の存在を感じさせる大きな流れだっと思います。万博を批判する人、肯定する人、つくる人、楽しむ人、傍観する人、共感する人、次の道を見つめる人……さまざまな人の感情の流れが大きくなるとなり、関西中の注目が集まる中10月13日を迎えることとなります。この特集の最後は、万博開催決定～開幕までの記録と、万博をつくってきた人々の記憶を残すことにしました。

「おぼえてろよ」は文章をQRコード化して掲載しています。スマートフォンのカメラやバーコードリーダーにて、袋とじを開けるような気分でお楽しみください。

[● … 万博のできごと ● … SNSやその他の話題]

開幕前

- 2018/11/24 ● 2025年国際博覧会の大阪開催が決定
- 2020/8/25 ● 公式ロゴマーク決定
- ロゴの二次創作が出てくる
- 2022/3/22 ● 公式キャラクターデザイン決定
- 2022/4/18 ● デザインシステム公開
- 2024/1/27 ● 藤本社介が「万博の意義について」をXで投稿
コメント約700件、182.3万件の表示の反響
- 2024/2/15 ● 「トイレ1カ所に2億円!」と見出しに入った記事が公開
以降、トイレ5が「2億円トイレ」と呼ばれるように
- 2024/5/7 ● 引地耕太がXにて初めて「こみゃく」と発言
- 2024/10/30 ● パソナグループ「PASONA NATUREVERSE」の
淡路島移設を発表
- 2025/1/19 ● 中央線「夢洲駅」開業
駅前までしか出れないのに見物客が殺到
- 2025/3/31 ● ダウンタウンが
大阪・関西万博のアンバサダーを退任

2025年4月

- 4/4 ● テストランを開催
- 4/6 ● テストランの会場でガス検知器を持参した動画がアップ
- 4/7 ● 「水と空気のマジカルダンス」が
ギネス世界記録™に認定
- 4/10 ● 交野市が「万博首長連合」脱退
- 4/11 ● EXPO酒場キタ・ミナミ本店 開店
- 4/12 ● 開会式
吉村知事が「ありがとう」を連呼
- 4/12 ● レビューサイト「万博GO」公開
- 4/13 ● 開幕初日、Adoが大阪・関西万博で熱唱
- 4/13 ● 初日なのに大雨に
- 4/18 ● ナウルパビリオンがバズる
- 4/18 ● ナウルアカウントがバズり出す
- 4/19 ● つじさんの地図Ver.1公開
- 4/23 ● 来場者が100万人を超える
- 4/23 ● 吉村知事が「エクスポーズ」をXで投稿
「足、カクカクなるわ。」と発言

2025年5月

- 5/1 ● インドパビリオンが遅れてオープン
- 5/13 ● バルト館でミヤクミヤクのぬいぐるみが盗まれる
その後、お客さんからたらくさんの
ミヤクミヤクグッズを寄贈される
- 5/13 ● まちごとまきこむEXPOマガジン「万博世代」発行
- 5/20 ● パソナグループ「オランダ館」の淡路島移設を発表
- 5/21 ● 夢洲駅の阿部寛の広告がバズる
- 5/22 ● 「ユスリカ」が大量発生
アース製薬が万博協会に「虫こないアース」など殺虫剤提供
- 5/24 ● ひろゆきが万博に来訪し肯定的なポストをする
- 5/25 ● 開幕当初からスويسパビリオンに設置している
「スイス」が突然バズる
- 5/26 ● 来場者が500万人を超える

会場デザインプロデューサー補佐
ランドスケープデザインディレクター

忽那 裕樹さん



国家イベントとなると、必ず大きな企業や団体が従来のやり方で席巻してきたが、今回はいろんな事情が重なって、そういうことがない前代未聞の状況の中、クリエイターたちと協働して、今までとはまったく違うやり方で万博をつくりあげることができた。これはほんとに大きなことだと思っている。あらゆるピンチを仲間とくぐり抜けて、万博を成功に持ってこれたことは絶対に忘れない!

おぼえてろよ…



トイレ5 設計者
米澤隆建築設計事務所

米澤 隆さん



はじまりは夢と希望でした。ですが気づけば「2億円トイレ」という言葉とともに事実に基づかない批判や誹謗中傷が拡散し炎上の渦中に。状況に向き合い言葉を尽くすうち理解者が増え、来場者の応援が波になった。やがて「2億円トイレ」は愛称へ反転し名所となり、ファンクラブやマスコットが誕生し、私は「動く米澤パビリオン」と呼ばれるように。小さな声が続けられ、逆風は追い風へ。嫌われ者から人気者へ――皆で起こした万博の奇跡の物語を忘れないで。心から、ありがとう。



博覧会マニア

二神 敦さん



おぼえてろよ…



「インターネットで何だっかって出来る時代に、万博なんて時代遅れ」と言われ続けてきたはずなのに… 開幕から日が経つにつれ、全期間パスを買い求める人がどんどん増えていき、心の中では「万博沼へいらっしゃ〜い!」とつぶややく日々。自作のスタンプ帳を手に、パビリオンを巡るチビっ子を見かけると、「後継者はキミだ!」と勝手に任命。「ホント万博って面白い」と感じる仲間が増えた2025年のアツい大阪を、オレは一生忘れない。



バルト館 パビリオンスタッフ

アルトゥル・ガラタさん



半年間を通して感じた「人と人のつながり」の力を忘れたくない。言語や文化が違っても、笑顔と温かい言葉で通じ合える瞬間が本当に多くあった。日本の方々がラトビアに興味を持ち、何度も足を運んでくれたことが心から嬉しかった。世界中の人々が出会い、互いを理解しようとする気持ちこそが、万博の本当の価値だと感じた。



全国のEXPO酒場リーダー
一般社団demoexpo 理事
株式会社オカムラ WORK MILL コミュニティマネージャー

岡本 栄理さん



最初は大阪や関西が元氣になればいいな、オモロいことが生まれればいいなとやり始めたEXPO酒場ですが、今や22都道府県に広がっています。万博から物理的に遠いのに、なんで?と最初は疑問でいっぱいいろいろな地域に向き合ってきたのですが、そこには必ず変態キーマンがいることが判明。(笑)みなさんに言われるのは、「大阪のオモロい」で動けるノリと勢いが羨ましい、自分の地域にも風を吹かせて欲しい!ということ。これから大阪流で地域を盛り上げていきます!



おぼえてろよ…



Osaka Metro
阿波盛管区駅 駅長代行

辻井 孝之さん



おぼえてろよ…

万博開催中は、多くのお客さまをお迎えすることができました。万博へ向かうお客さまのワクワクした表情を見ると、私も嬉しくなると同時に、必ず安全に帰っていただきたいという使命感を強く持ちました。子どもからお年寄り、世界各国の方々と「ありがとう」と言葉を交わし、コミュニケーションを取ることでできたのは、貴重な経験となり心に残りました。忙しい日々でありましたが、お客さまの思い出の一部になれたことが、何よりも誇りです。

- 6/4 ● 万博ウォータープラザからレジオネラ属菌が検出され水シャワーが中止に
- 6/6 ● バルト館に集まったミヤクミヤクグッズが病院へ寄贈される
- 6/4 ● TVCM「一生に一度を何度でも」オンエア
- 6/13 ● 京都dddギャラリー「モダン・エキスポ・ポスターズ：グラフィックでみる現代の万博」開催 連日行列が出る人気に
- 6/29 ● 来場者が1,000万人を超える
- 6/30 ● 来場者数1,000万人達成記念スタンプが期間限定で登場

- 7/6 ● 藤崎マーケット・トキ【エンドレスで盆踊りをしている話】をXに投稿
- 7/10 ● 2億円トイレファンクラブ設立
- 7/11 ● 7/19から8/31まで毎日花火を打ち上げる「ミニ花火大会」を発表
- 7/12 ● プルーインパルスが会場の上空で展示飛行
- 7/13 ● 「空飛ぶグルマ」のデモ飛行再開
- 7中旬 ● コモンズBのスタッフがおもしろくて話題になる
- 7/19 ● ネパール館が開館し全パビリオンがそろう
- 7/25 ● EXPOアリーナで「マツケンサンバII」披露
- 7/26 ● 盆踊りでギネス記録達成(62か国・3946人)
- 7/30 ● 大阪市役所前のミヤクミヤクモニュメントが会場に移設

- 8/1 ● 大阪メトロ中央線車内アナウンスで「いよいよ、夢洲です…」から始まり『この地球の続きを』が流れる演出が始まる
- 8/4 ● 「ヨヤクナシ」ダンスがバズってインドネシア館が突如トレンド入り
- 8/6 ● 来場者が1,500万人を超える
- 8/13 ● 大阪メトロ中央線にてトラブルが発生
- 8/13 ● 会場に残ったお客さんがライブカメラに向かってパフォーマンス後に「オールナイト万博」と呼ばれる

- 9/6 ● 来場者が2,025万人を超える
- 9/11 ● 大阪市が大屋根リングの保存を検討
- 9/16 ● EXPO アテンダント×キャラクター ワールドフェスティバルの人気投票でドイツパビリオンのサーキュラーちゃんが1位に
- 9/19 ● 閉幕まで毎日開催「EXPO Thanks 花火大会」発表
- 9/19 ● 閉幕が迫り来場予約枠が10/13まで全日程埋まったことを発表
- 9/27 ● 来場者が2,500万人を超える

- 10/1 ● 大阪府立江之子島文化芸術創造センター(enoco)「大阪・関西万博デザイン展」開催
- 10/1 ● null²パビリオンのクラウドアワードインディグ「ぬるぬるのお引越」23時間で第一目標金額「1億円」を達成
- 10/1 ● 公式スタンプラリーに「ファイナーレスタンプ」が登場
- 10/5 ● 「ミライ人間洗濯機」の量産化が決定
- 10/7 ● 万博の運営費が230億~280億円の黒字見込みになることを日本国際博覧会協会が発表
- 10/13 ● EXPO ホール「シャインハット」にて閉会式 大阪・関西万博 閉幕

10/?? ●

これ以降の「わすれたくない」は…Web上へ!



みなさんの「わすれたくない」教えてください!

本当は、閉幕してしまいう2025年10月13日以降の「わすれたくない」まで記録していきたいのですが、締め切りのある紙媒体ではそこまでは残せません。そこで、期間限定でメールアドレスを登録しますのでみなさんの「わすれたくない」を教えてください。できる限り左記のWebサイトの方へ掲載させていただきます。



キルギスパビリオンスタッフ
ダーナさん

EXPOは私にとって、成功と貴重な経験、そして忘れられない思い出の場所でした。キルギスの文化を紹介し、民族舞踊を通して多くの来場者の方々に喜んでいただくことができました。また、自分を応援してくれるファンや仲間が増えたことは、私にとって大きな喜びです。文化交流や友情、若者のつながりを通して、未来への希望を分かち合えたことを誇りに思います。いつも支えてくださったCommons Aのスタッフの皆さん、そしてEXPOに心から感謝します。この経験は、私の人生の中で最も大切で、心に残る時間となりました。



パキスタンパビリオンスタッフ
アルマンさん

万博での最も印象深い思い出は、忙しい父がパキスタンから遠路はるばる会場まで足を運んでくれたことです。短い時間でしたが、共に万博を巡ることができ、久々に家族としての時間を過ごせました。開幕時には母と祖母が来てくれ閉幕時には父が来てくれたので大満足です。パキスタン館を案内した後、パレスチナ、クウェート、サウジアラビア、エジプト、バングラデシュなど各国のパビリオンを見学し、大屋根リングに登って花火を鑑賞するなど、貴重なひとときを過ごしました。また、勤務中にお世話になっていた同僚の皆さんにも父を紹介できて、本当に良かったです。



万博GOの人
カッキーさん

万博とともに成長した子ども連。万博が始まったときは1歳だった娘がいつの間にか2歳になって、「ミヤクミヤク」と言うことも出来なかったのが、今では「この地球の続きを」を熱唱している。息子も万博のイベントでWASSEでプレゼンをしたことで、少し大人になった。半年という短いようで長い間に子どもが成長していくのを感じた。

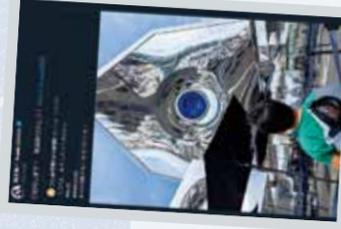


おぼえてろよ…



非公式マップ作者
つじさん

落陽合一さん自らnull²のパビリオンに招いていただいた一連のことはきつといつまでも忘れられません。こんなあり得ないような、言うなれば不公平な特別扱いだったので知る限り誰からも否定的な話はなく、全てのコメントが落合さんと私への「ありがとう」だったんです。万博のパビリオン巡りを目的にした地図を開催当初の4月に作ってからずっと更新し続けてたんですが「こまでたくさんの人に感謝されてたのか…」となりました。本当に嬉しくて泣きましたね。



おぼえてろよ…



一般社団法人demoexpo
理事 副代表・プロデューサー
今村 治世さん

色々あるんですが、「個人の力がすごかった」ですかね。ロゴマークやミヤクミヤク、こみゃくの二次創作、会場内外でたくさん生まれた勝手企画、SNSを通じた盛り上がり。熱量のある活動が社会を変えていく姿を目の当たりにしました。それを仕掛けたみんながHEROでした。そしてdemoexpoも本場に多くの仲間たちが奇跡的に繋がって、最高のチームになったと思っています。これからもずっと信頼し合える関係が生まれた万博に、あらためて感謝です。



おぼえてろよ…



開幕1か月前の朝、大屋根リングの内側に初めて入った時に見た光景はわすれたくない。茶や白、灰色を基調としたパビリオンたちが木造の大屋根に囲まれ、会場全体が落ち着いた雰囲気なのに驚いた。その日は乳白色の曇り空で、人もほとんどいなかったため、余計そう感じたのかもしれない。1970年大阪万博と比べ「色」がないといわれていたが、持続可能性が求められる今の時代らしい世界が広がっていた。万博の成功を確信した瞬間だった。

万博世代に繋がる元「EXPOST」編集人 **竹田徹**

「万博には何かしら関わりたいいな。どうせ何か直前の仕事あるでしょ」と思っていた2025年3月。demoexpoで一緒に何かやらない?というお誘いを受け、気づけば週に2日は万博、迎賓館も招待されて、パビリオンも全制覇。万博世代にも全ての巻に関わることができて、自分の仕事の可能性が広がった半年間。今後はもっと大阪を盛り上げていく軸と万博と関わり続ける軸とで動きたい。2025大阪・関西万博、本当にありがとう。

万博世代の海外担当 **宮外真理子**

1970年の大阪万博に刺激された(万博おじさん)を中心に、2022年4月に万博を勝手に応援する大阪・関西万博応援マガジン「EXPOST」を制作発行する。まずは「万博って何?」、「EXPO70はどうだった?」などの記事を書くために万博マニアの方々と友達になり、楽しい面白い話をし、次に2025年の万博関係者やパビリオン出展社のインタビューを行い、非常に面白かったです。子ども達にも万博面白かったな〜、また行きたいな〜と思えてもらえば嬉しいです。

万博世代の印刷所 **紀之定正一**

誘致活動が心配で大阪府庁の万博誘致推進室に直談判に行った帰りに大阪府庁ライスを食べたこと、「ロゴを使わないなら自由にできるよ」と言われそのとおりにしたこと、肯定派も否定派の意見も聞いたこと、求められなくても「でもやるしかない」と思ってdemoexpoを立ち上げたこと、どんな仕事でも真剣に万博の成功とは何かを考えてきたこと、会場装飾では誰かの「わすれられない瞬間」をつくることを想像し続けたこと。たぶん全員、新しい万博世代になれたこと。

万博世代の編集長 **山根シボル**

このフリーペーパーのデザインをきっかけに関わった万博。はじめて取材で訪れた日は、21時ギリギリまで commons を見て回りました。当時まだ「ヨヤクナシ」で入れたインドネシア館の美しい展示の数々に目を輝かせた日が、つい昨日のように思えます。この冊子が目に留まり、興味を持って今回の大阪・関西万博へ訪れた人が一人でもいたら嬉しいです。本当に終わってしまうのが寂しいですが、私のたくさんの方の好奇心を引き出してくれた万博、ありがとう!またね。

万博世代のデザイナー **桶川真由子**

この半年で一番書いた文字が「万博」。仕事を通して色々な角度から万博に関わった貴重な経験。さらに二拠点で暮らしている高知県の田舎町の友達夫妻が、ポルトガルレストラン部門を運営、もう一人の友達は「Better Co-Being」スタッフだったり、思わぬ場所で万博仲間がいたのも嬉しかった。未知なる体験やワクワクのシャワーを浴び続けた半年。少し涼しくなった夕暮れに大屋根リングを眺めながら飲むビールも格別だった。

万博世代の編集人 **笹貫淳子**

これで、フリーペーパーとしては最終号ですが
私たちはこれからも“2025年の万博世代”。
わすれたくないことだけ大切に、
万博後の世界に踏み出しましょう。

原稿確認のために海外パビリオンを訪ね歩き、汗だくになった真夏。8月の commons で、今日で38回目と教えてくれたおじさん。「イタリア人たちと一緒にライブで歌う」という夢が叶った MATSURI アリーナ。大きな組織でなく個人の力が集結して育つものがあると実感した半年間。そして海外パビリオンでみんなが感じた胸の高鳴りや好奇心が、日常に戻っても波のようにずっと続くといいな。分断が深まる日々の中で今、そう強く感じている。

万博世代の編集・ライター **小島知世**

「夜のパビリオン」プログラムは以下の協賛企業の皆さまの後押しで実現しています



こんでる? すわれる?

混 空

御堂筋線 中央線

アプリでチェック!

号車	混雑状況	設備	温度
1	大変混雑	♿	24°C
2	混雑	♿	25°C
3	やや混雑	♿	24°C
4	ゆったり立てる	♿	24°C
5	空席あり	♿	26°C

車両の混雑がわかる、おでかけに大活躍!

e-METRO

Osaka Metro 公式アプリ イーメトロ

ダウンロードはこちら

万博世代を
応援しています

真生印刷株式会社
SHINSEI PRINTING COMPANY LIMITED

協賛：真生印刷株式会社、新生紙パルプ商事株式会社

新生紙パルプ商事株式会社

協力：サンケイ総合印刷株式会社、大阪まちごと万博共創プラットフォーム

万博世代 vol.5 2025年10月13日発行 発行 一般社団法人 demoexpo 〒550-0003 大阪府大阪市西区京町堀 1-12-11 愛晃ビル 4F

デザイン：桶川真由子 (Neki inc.)
撮 影：木村華子

翻 訳：宮外真理子
編集・執筆：小島知世

万博世代編集部：笹貫淳子、山根シボル

配架先MAP ▶



●本誌掲載のデータは2025年10月13日現在のものです。●本誌掲載の情報は予告なしに変更になる場合があります。●本誌記載の記事、写真、イラスト、デザインの無断転載を禁じます。